「医学図書館」執筆規程　2026年3月改訂

Ⅰ．本誌の内容

本誌は特定非営利活動法人日本医学図書館協会機関誌として，医学およびその関連分野における情報活動・サービス等に関する記事と読者間のコミュニケーションを重視した定例記事やニュース記事で構成され，他誌に発表されていない原稿を和文または英文により掲載する。他誌へ投稿中の原稿は採用しない。

Ⅱ．原稿の書式

1. 投稿表紙

本誌のウェブサイト（https://jmla1927.org/bulletin.php?q=506）からダウンロードして，所定事項を記入する。標題は，論旨を具体的に表現したものとする。また日本医学図書館協会の活動報告については，所属欄に協会の役職もしくは活動事業の担当名を併記する。

2. 本文

原則としてWord形式で作成する。

様式は，A4版設定に25字×22行の横書きで作成する。やむを得ず手書きの場合はA4サイズの横書き400字詰原稿用紙を用いる。上記のウェブサイトでダウンロードする原稿用紙テンプレートの利用を推奨する。

記事の長さは，図表を含めて刷り上がり8ページ（25字×22行のA4版用紙4枚が，実際の誌面の刷り上がり1ページに相当）以内とする。各記事の長さは後述のⅢを参照のこと。

各章の標題は，大項目をⅠ．Ⅱ．Ⅲ．（ローマ数字）…，中項目を1．2．3．（アラビア数字）…，小項目は，1）2）3）…のように表記し，大項目の前後は1行空ける。中項目の前は1行空ける。英数字は半角を用いる。また原稿には通しページを記入する。

3. 英文抄録およびキーワード（英語）

原則としてWord形式で，本文とは別ファイルで作成する。

論文・事例報告には必ず英文抄録とキーワードを付与する。

特集記事は，内容によって作成を依頼する場合がある。また，オピニオン，レビュー，解説，特集，オン・ザ・スポットの英文抄録およびキーワードは任意とする。

英文抄録は200語程度（60字×17行程度が目安）で作成し，キーワードはMeSH等を参考にして5個以内で付与し，英文標題も明記する。抄録は一人称の使用は避け，第三者抄録のスタイルとする。英文標題と抄録は，編集委員会が外部委託により校正をする。ただし，投稿前に英文校正済みの場合は行わない。

4. 図表など

図表は簡潔に作成し，文中に挿入する箇所を指定する。生データを図表にしたものは避ける。原稿そのものから組版できるようにモノクロで作成し，Excel等の図表作成ソフトで作成した別ファイルをそのまま提出する（PowerPoint等の貼り付け画像は用いない）。

他の文献等から図表などを引用・利用する場合の転載許可・掲載許可は著者がとる。写真を掲載する場合は肖像権やプライバシーにも十分に留意する。引用・利用の出典は文中あるいは引用文献・参考文献リストに明記する。

「グラフ作成のポイント」を参照のこと（「医学図書館」ウェブサイト　https://jmla1927.org/doc/kikanshi/doc/graph.pdf）。

図表の標題，説明文はキャプションテンプレートに記入する。掲載時の図表の大きさと位置は編集委員会に一任する。また，カラー画像を希望する場合は，その費用は著者負担とする。

5. 参考文献

本文の末尾に記載すること。引用する参考文献は主要なもののみに限定し，一般に入手可能なものが望ましい。

引用文献は引用順に一連番号をつけて配列し，引用箇所には肩付片括弧数字を記入する。

著者が6名以内の場合は全員の名前を記載し，それ以上の場合は最初の6名まで名前を記載し，後は（ほか）または（et al.）とする。欧文雑誌名の省略は，MEDLINEの省略名に準拠し，和文誌名は省略しない。

文献のページ表記は，以下の例のように省略して記載する。最終ページは開始ページと重複する部分は省略する。

ページ記載例　341-347.　→　341-7.

Presented by Medical*Online

同一書誌内からの引用・参考についても「同上」などの省略を避け，書誌事項の全てを記載する。
引用文献・参考文献の記載方法はCiting Medicine, 2nd edition: The NLM Style Guide for Authors, Editors, and Publishersに準拠する（参考URL：https://www.ncbi.nlm.nih.gov/books/NBK7256/）。

〈引用文献・参考文献の記載方法と例〉

電子文献の場合は，通常の引用方法に[媒体]，URL，アクセス日を加える。

a. 逐次刊行物

著者．論文名．誌名．出版年；巻数（号数）：開始ページ - 最終ページ．

1) 城山泰彦．ジャーナル評価指標の経年変化：学問分野におけるJournal Impact Factorの分析をとおして．医学図書館．2023;70(2):73-7.
2) 山崎むつみ，増田裕美．がん拠点病院における医療者の電子学術情報アクセス：リンクリゾルバによる支援と課題．医療情報学連合大会論文集．2010;30th:588-90.
3) 特集1．使いやすさとデザインを考える：Webのユニバーサルデザインって何ですか？．Web Designing. 2002;2(5):40-63.
4) 菅修一．吉村昭記念文学館と群馬県立文書館で開催された資料展示会見学報告．医学図書館．2023;70(4)(印刷中).
5) 研究成果の減少懸念も．医師の働き方改革4．医療ルネサンス No. 8160．読売新聞．2023年12月18日;朝刊.
6) Boruff JT, Kraft M, Carroll AJ. Introducing the Journal of the Medical Library Association's policy on the use of generative artificial intelligence in submissions. J Med Libr Assoc. 2023;111(4):747-9. doi:10.5195/jmla.2023.1826.
7) Sugita S, Horikoshi K, Suzuki M, Kataoka S, Hellman ES, Suzuki K. Linking service to open access repositories. [internet]. D-Lib Magazine. 2007;13(3-4). http://www.dlib.org/dlib/march07/sugita/03sugita.html [accessed 2024-02-24]

b. 単行本

著者．章の見出し．編者名．書名．版表示．（シリーズ名；シリーズ番号）．出版地：出版者；出版年.p. 開始ページ - 最終ページ．

1) 大﨑泉，成田ナツキ．図解PubMedの使い方：インターネットで医学文献を探す．第8版．東京:日本医学図書館協会;2022.
2) 小田光宏，庭井史絵．図書館サービス概論．（JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ;4）．東京:日本図書館協会;2023.
3) アンドリュー・グッドヘッド，ナイジェル・ハートレー編（小森康永［ほか］訳）．みんなのスピリチュアリティ：シシリー・ソンダース，トータルペインの現在．京都:北大路書房;2020.
4) Brodman E. Research in health science libraries. In: Darling L, editor. Handbook of medical library practice. Vol.1. 4th ed. Chicago:Medical Library Association;1983.p.273-317.
5) 田中草大．＃卒論修論一口指南．東京:文学通信;2022．[internet]．https://elib.maruzen.co.jp/elib/html/BookDetail/Id/3000134942?0 [accessed 2023-12-21]

c. 会議録，学会抄録

著者．論文名．誌名：学会開催日；学会開催地：出版者；出版年.p. 開始ページ - 最終ページ．

1) 山崎茂明．論文発表からみたES細胞ねつ造事件．第23回医学情報サービス研究大会抄録集:2006年7月15-16日;千葉:医学情報サービス研究会;2006.p.15.

d. 非図書資料

書誌記述方法の詳細は，印刷媒体の引用方法を参照すること。

著者．論題［媒体］．書誌．

1) 日本医学図書館協会ビデオ制作委員会企画･監修．医学研究のための文献の探し方[video]．（Library video series医学情報の達人;2）．東京:紀伊國屋書店;1994.

Presented by Medical*Online

e. ウェブサイト

サイト名 [internet]. URL [accessed yyyy-mm-dd]

1) 日本医学図書館協会[internet]. https://jmla1927.org/index.php [accessed 2024-02-24]

f. ウェブページ

著者. タイトル [internet]. URL [accessed yyyy-mm-dd]

1) JPCOAR. オープンアクセスリポジトリ推進協会の概要[internet]. https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/page/38 [accessed 2024-02-24]

Ⅲ. 記事の長さ

原稿量の目安は，以下を参照のこと。なお「本文枚数」に参考文献の分量は含まない。

記事区分	本文枚数	図表枚数	英文標題	英文抄録
会員館紹介	3～5	2以内	必要	不要
広場	3～6	2以内	不要	不要
読者からの手紙	2～3	ナシ	不要	不要
レビュー	16～23	10以内	必要	任意
オピニオン	12～20	5以内	必要	任意
解説	12～20	5以内	必要	任意
特集	8～19	10以内	必要	任意
論文	12～19	10以内	必要	必要
事例報告	8～15	5以内	必要	必要
エッセイ	12～20	5以内	必要	不要
報告・JMLA活動報告	8～20	5以内	必要	不要
オン・ザ・スポット	3～12	1～2	必要	任意
プロダクト・レビュー	3～6	1～2	不要	不要
Q&A	3～6	1～2	不要	不要
レファレンス事例集	2～4	3以内	不要	不要
BookReviews	750字	1	不要	不要

Ⅳ. 校正

初校は著者校正とする。著者は依頼されたら，速やかに校正を行い返送する。この際，原稿にない大幅な修正や加筆はしない。

Ⅴ. 別刷

著者（筆頭著者）に，別刷（PDF版）を無償提供する。印刷版を希望する場合は，投稿表紙の所定欄に記入する。また，その費用は著者負担とする。

別刷料金表（税別）

部数＼頁数	1頁	2頁	4頁	6頁	8頁
別刷　50部		4頁以下：5,000円		5,500円	6,000円
100部		4頁以下：7,000円		7,500円	8,000円

製本　中とじ

用紙　表紙　上質紙110kg，本文　上質紙70kg

梱包発送料　1点につき1,000円（税別）

上記は，国内発送の場合とし，海外発送の場合は，別途とする。

Presented by Medical*Online

Ⅵ. 掲載原稿の取り扱い

掲載された記事の原稿は，原則として返却しない。ただし，写真については投稿時に著者の希望があれば後日返送する。

Ⅶ. 査読

編集委員会が中心となって行う。外部査読員に審査を依頼し，審査結果をもとに著者による修正・加筆をした最終原稿の再提出を要求する場合がある。

また，記事区分の最終決定は編集委員が行う。

Ⅷ. 著作権

本誌に掲載する論文・記事等に関する著作財産権の帰属および著作物の利用については，本会の著作権に関する内規による。

Ⅸ. 投稿締切日の目安

投稿に際しては，以下の締切日を目安にする。

号	発行月	締切日
1号	3月	前年11月末日
2号	6月	同年 2月末日
3号	9月	同年 5月末日
4号	12月	同年 8月末日

Ⅹ. 原稿提出の方法

原稿は電子メールに添付して送信するか，原稿を保存した電子メディアを郵送する。

なお原稿は以下のファイルで構成することとする。

・「投稿表紙」（Ⅱ－1）参照

・本文

原則としてWord形式で作成すること。

・図表及びキャプションテンプレート

原則としてExcel形式で作成すること。

・英文抄録（必要に応じて）

200字程度，60字×17行程度を目安として作成すること。また5個以内でキーワードを付与すること。

原稿提出先・問合せ先

「医学図書館」編集委員長　浅野　　泉

E-mail：JMLA-editorial-A@umin.ac.jp

ただし編集委員会からの依頼原稿は，それぞれの担当者へ提出するものとする。

・「医学図書館」ウェブサイト

https://jmla1927.org/bulletin.php

・「医学図書館」執筆規程2026年3月改訂

https://jmla1927.org/doc/kikanshi/kitei.pdf

・「医学図書館」執筆ガイド2026年版

https://jmla1927.org/doc/kikanshi/guide.pdf

Presented by Medical*Online

「医学図書館」執筆ガイド2026年版（73巻1号掲載）

「医学図書館」編集委員会

本誌は特定非営利活動法人日本医学図書館協会機関誌として，医学およびその関連分野における情報活動・サービス等に関する記事と読者間のコミュニケーションを重視した定例記事やニュース記事で構成します。

このガイドを執筆される際の実際的な指針としてください。

Ⅰ．執筆にあたって

1．標題

1）長くても具体的な標題が適切です。副題はできるだけ避けてください。

2）レビュー，論文，事例報告などの記事には，「…について」，「…に関する一考察」というような表現は避けてください。

2．本文

1）主観的，文学的，感覚的な表現，過度の丁寧語・謙譲語は適切ではありません。

2）あいまいな表現に注意してください。「ぐらい，ほぼ，らしい，たぶん」などのボカシ表現は避けるべきです。

3）主語は読者にわかるように適切に記載してください。代名詞はあまり頻繁に使用すると読者に混乱をもたらします。

4）できるだけ具体的に表現してください。
例：「昨年…」→「2017年…」

5）論文・報告・事例報告などは「である」調で書いてください。

6）インターネットのウェブサイトを示すときは，“Webサイト”または“ウェブサイト”としてください。

7）表記ゆれにご注意ください。
例：「サーバ」「サーバー」
文中ではどちらかに統一してください。

8）単語の省略形を使う場合は，最初に定義してください。
例：○○大学（以下，本学という）

9）「特定非営利活動法人日本医学図書館協会」は，定義なく「JMLA」と記述してください。

3．参考文献

1）直接参照したものだけを挙げてください。関連性の薄い多くの文献を挙げて，参考文献リストを飾りたてないよう注意してください。

2）文献リストは誰でもが入手できる公刊された資料から構成される必要があり，私信や未刊行資料は文献リストに挙げずに，本文中に記載してください。

3）文献リストが不正確であれば，その記事の信頼性まで問題にされます。著者の責任で正確な記述に努めてください。

Ⅱ．記事のスコープ（以下，本誌での掲載順）

投稿は随時受け付けています。

1．会員館紹介

現況や歴史・写真などを織り交ぜて，自館の紹介をしてください。新規会員館は随時，掲載しています。

2．広場

特定のテーマに基づき，情報交換のための実務的な内容や同じ職業人としての日常を描いたエッセイを織り交ぜて掲載しています。

3．読者からの手紙

本誌についてのご感想，本協会へのご意見など，個人の立場で自由に書いてください。

4．レビュー

学問的なレビューだけでなく，解説的ミニレビューも掲載します。ミニレビューは，文献数が20から40程度です。なお，多くの著作に触れながら考察を展開していく過程で，ご自身の意見と他者の意見が読者に区別しにくくならないよう注意してください。

5．オピニオン

医学およびその関連分野の情報専門家として，情報流通，情報サービスについて，提言や示唆，望むべきことなどをお寄せ下さい。

6．解説

医学およびその関連分野の情報専門家として，情報サービスやものごとの分析結果を解説してください。さまざまな情報サービスに従事する人々が読んでも理解できるように，略語の使用に注意してわかりやすくまとめてください。文章だけでなく，関連図表や写真などを使うと効果的です。

7．特集

編集委員会が企画したテーマに基づいて執筆を依頼し，集まった記事を掲載しています。論文または事例報告のよ

Presented by Medical*Online

うな記事が主体となり構成されます。また投稿された記事でも，関連があるものは特集として扱う場合があります。

8．論文

読者のために役立つ，調査や観察に基づいた研究的論文を掲載します。経過をそのまま報告するのではなく，目的や重要な結果を中心に読者に理解しやすいよう構成してください。

9．事例報告

個人が独自のテーマで行った調査報告や，各館で行った活動の事例を，簡潔にまとめてください。一般的なこと，文献の引用で済むこと，論点からはずれた細かな事項などは，詳細に書きこむ必要はありません。また，文献的な考察に重点をおくよりも，まず正確に事例を伝えることを第一とし，読者にどのようなメッセージを伝えたいのかという視点から内容をまとめてください。

10. エッセイ

個人的な気持ちや意見を率直に表現してください。職業人として共感できる内容を幅広く掲載します。

11. 報告・JMLA 活動報告

研究会・研修会の開催や参加の報告，特定非営利活動法人日本医学図書館協会（JMLA）関連の活動内容・調査結果などを，参加していない人にも伝わるように簡潔にまとめてください。写真やプログラム掲載は効果的ですが，詳細すぎるものは必要ありません。

12. オン・ザ・スポット

エッセイや報告にあてはまらない，現在の関心事や話題となるトピックスを提供する場です。たとえば医学やその関連分野資料の展示会の訪問記などをお寄せください。

13. プロダクト・レビュー

新しい電子メディアや情報システムを対象に，製品を実際に利用してみて感じたことを，紹介してください。

14. Q & A

日常業務のなかで生まれた疑問に対して，Q＆A の形式で，医学図書館員として知っておくべき情報を回答します。

15. レファレンス事例集

日頃のレファレンス業務の中から，多角的に探索した例等，他館にも参考になる事例を紹介してください。なお，このコーナーの基本的な構成は，質問，調査の経緯，回答，情報源，補足，ポイントとなっています。

16. Book Reviews

読者にすすめたい主に「医療」や「図書館」分野のブックレビューを取り上げます。なお，レビュー対象の資料は，過去に本誌においてレビューの掲載がなく，直近2年以内に出版されたものです。

17. 東西南北（編集委員・編集協力委員担当記事）

日常業務に役立ち，自己研讃につながる内外のニュース記事を掲載します。

図書館業務，図書館・情報学関連，出版関係，著作権問題，コンピュータ関連，その他，医学図書館に関連するニュースなどを紹介します。

18. ジャーナル・クラブ（編集委員・編集協力委員担当記事）

日常業務の参考となる内外の文献を紹介します。

Ⅲ．執筆のための参考資料

1．論文作成

斉藤孝，西岡達裕．学術論文の技法．新訂版．東京:日本エディタースクール出版部;2005.

Bjorn Gustavii（畠山雄二訳）．うまい！と言われる科学論文の書き方：ジャーナルに受理される論文作成のコツ．東京:丸善;2005.

酒井聡樹．これから論文を書く若者のために．究極の大改訂版．東京:共立出版;2015.

諏訪邦夫．論文を書いてみよう！．東京:克誠堂出版;2005.

2．英文抄録作成

成田滋．英文抄録作成法：世界へ向けての情報発信．情報の科学と技術．1999;49(5):244-9.

3．文献検索，管理

讃岐美智義．超！文献管理ソリューション．東京:学研メディカル秀潤社;2011.

山崎茂明，六本木淑恵．看護研究のための文献検索ガイド．第4版増補版．東京:日本看護協会出版会;2010.

4．発表

諏訪邦夫．理系のための上手な発表術．東京:講談社;2005.

Peter J. Gosling（徳田耕一，北村房男共訳）．科学者のためのポスターセッションガイド．東京:丸善;2001.

他におすすめの資料がありましたら，ぜひお知らせください。

Ⅳ．著者校正時のお願い

著者校正は，十一房印刷工業からご連絡いたします。著者校正では原稿にない大幅な修正・加筆はご遠慮ください。大幅な修正とは，全体に亘る語句追加，文章追加，構成の変更（項目入れ替え，項目番号の追加など），図表の追加などです。

Presented by Medical*Online